

飛躍

TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

HIYAKU

第314号



東海大学附属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2012年10月1日

●発行者/東海大学附属高輪台高等学校・中等部 校長・黒坂道生

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ

Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP*NEWS

東海大学適性審査による合格者27名

学園オリンピック

(文化部門)優秀者4名 (スポーツ部門)男子総合3位



特別奨励内定者の皆さん
後列左から野田さん、根本さん、星君、川北君、長瀬君
前列左から村上君、飯村君、加藤田君、倉崎君、矢澤君



学園オリンピック夏季セミナー受賞者の皆さん
後列左から小山君、庄司君、小杉君、美馬さん、木内君
前列左から川北君、長瀬君、尾上さん、藤澤さん



学園オリンピック (芸術【造形】部門)



学園オリンピック (理科部門)

中高生のための体験学習と交流会開催

8月6日から2泊3日で「中高生のための体験学習と交流会」が東海大学湘南校舎で行われました。学園の付属中高生を対象に行われ、本校から中等部2・3年、高校1年の16名が参加しました。大学の研究室や施設見学、実験や発表を通して理工系の楽しさに触れてきました。また、交流会では大学生や大学院生と懇談し、大学生活のイメージがつかめ進路を考える参考にもなったようです。

あつという間の3日間

浅山 和輝

1年9組 東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

私が、この体験授業へ参加しようと思った理由は2つあります。まず1つ目に将来行きたいと思う学科を見学し、実際にどのようなことをやっているのかということを知っておきたかったということ、2つ目は数多く行われる実験に興味を持ち、やってみたく思ったからです。風力発電でバッテリーを充電し模型の車を走らせる実験や、伝統金属工芸の七宝焼きに利用されている、燃焼による化学変化を観察する実験などを行いました。風力発電を利用した実験では、風力発電のしくみや風力発電のメリット、デメリットなどを学びました。七宝焼きを作る実験では、金属の化学反応のしくみや、歴史などを学びました。実験をする中で大学や大学院の先輩と交流ができたということがとても自分にとっていい経験になったのではないかと思います。このイベントでは学部見学やさまざまな実験を通して、科学への興味を持つことができる良いきっかけになるのではないかと思います。



七宝焼きにチャレンジ



コンクリートを型に入ると...

カナダ短期留学

今回で3回目となる夏期カナダ短期留学には、1年生2名、2年生6名の計8名の高校生が参加しました。平日はバスや船を利用して語学学校へ通い、夕方まで英語漬けです。週末にはカナダの自然を存分に楽しむことも可能です。カラッとしたノースバンクーバーの夏はとても快適で、治安も安定しており、さらに地元の方の英語はとても聞き取りやすいなど、英語力を鍛えるには申し分のない留学です。

カナダ短期留学を終えて

鷹取 幸大

2年9組 目黒区立第十一中学校出身

今回の1か月を通して、普段の日常生活では決して体験することのできない貴重な経験を積むことができました。日本語ではなく英語という言語を使った生活はもちろん、異国の文化や様式、考え方など実に様々なことを学び、非常に良い刺激になったと思います。

語学学校で衝撃を受けたのは、世界中の色々な国から来ている人同士が皆英語を通じて互いの意思を理解できていたということ。さらにその英語は、流暢な英語に聞こえても、実は文法等が決して正しいわけではないということ。実際に現地で英語を話してみても、意思の疎通するには、文法は自分が思っていたよりも重要なことではないということも、身をもって感じました。

ホームステイ先での生活はとても充実していたものにする事ができたと思います。簡単な会話なら特に問題もなくでき、留学後半ではホストファミリー同士の速い会話も多少は聞き取れるようになり、少しですが英語の能力がより身についたと実感しました。また、ホストファザーとは趣味が非常に合い、その分野については少し深い話もできたのが嬉しく思いました。

このプログラムへの参加を決めた時は、正直迷いもありましたが、今終わってみるとカナダに住みたいと思う程素晴らしい体験ができました。日本で何年も学んでいた英語が実際に使えるということが分かってとても嬉しかったし、自信もつきました。近い将来またカナダを訪れたいと思います。その時はより流暢な英語で話せるようにしたいと思います。



2012年度学校運営方針

今月からは、5月号および6月号でご案内しました、本校の教育の重点目標に対する具体的な取り組みについて、細かくご紹介していきます。

研究授業・公開授業への積極的な取り組み

授業風景



本校では、毎年各教科で「研究授業を行っています。授業公開については、受験生の学校訪問をはじめ一般の方々いつでも授業を見学していただくことができます。5月と11月には、全学年の授業を見ていただけるよう一斉公開授業日を設定しています。また、授業改革の資料とするために、生徒による授業評価を5月・9月・11月の年3回実施しています。そして、毎年5月に行っている教員研修会において、

前年度のベストティーチャーの模擬授業が行われ、どのような授業が生徒に評価されているかを全教員で研究しています。つねに生徒・保護者・周り教員の声に耳を傾け、個々の指導技術の向上を目指しています。

アクティブボード(電子黒板)等教育機器を活用した授業改革の推進

アクティブボードによる授業



本校の全教室には、アクティブボードが設置されています。この教育機器を有効に活用して、つねに新しい情報を授業に取り入れるなど、視覚・聴覚を十分に刺激する高輪台高校独自の教育方法を開発しています。映像・動画などを巧みに使い、生徒の興味をそそり印象に残る授業展開になっています。このような機器に頼るだけでなく、状況に応じて使ってこそ意味があります。

本校は、日々教育改革・授業改革を目指して研究を重ね、全教員が、個々の生徒の理解力や定着率の向上を目指しています。

中等部1学年だより

スポーツ大会の翌日、5月29日(火)、中等部1年生は校外活動を行いました。伺ったのは、江戸東京博物館、旧安田庭園、復興記念館。江戸時代から戦後まで、在りし日の日本の姿をさまざまな角度から学びました。当時を生きた人びとの姿に生徒たちも感じるところがあったようです。

平和

横山 龍

1年A組 川崎市立宮前小学校出身

僕は校外活動として江戸東京博物館に行き、たくさんものを見ていろいろなことを感じました。例えば日本橋が51メートルだったということ、東京大空襲で亡くなった人が10万人を超えていたということ、空襲で使われた不発弾、遺品として残っていた古いお札などです。

特に印象が強かったのは不発弾についてでした。不発弾は空襲などに使われていたものだから、きっと軍隊や自衛隊が研究のためにすべて回収してしまったのかなと思っていました。また、いくら不発弾だからといっても、もうさびて爆発しないだろうと思っていました。

僕は不発弾がすべて処理され、みんながずっと平和でいられればよいと思いました。そして今回の校外活動を通して僕は、みんなの役に立てる人間になりたいと思いました。

校外学習で感じたこと

青柳 有華

1年B組 港区立青南小学校出身

私は校外活動で感じたことがあります。それは昔の人びとの思いです。

私が感じた昔の人びとの思いは2つあります。1つは、日本は素晴らしい文化を持ち、あきらめない強い心を持っているということです。どこで感じられたかという、敗戦後、オリンピックを東京で開催し、世界の目を日本に向けさせたところ。2つめは、「もう過ちは犯さないで!」という思いです。日本が強い態度をとったために、戦争によって多くの命が失われてしまったからだと思います。

今回の校外活動を通して今の日本は歴史を見直した方がいいと思いました。歴史を見直し、現代のことに目をつぶらない。そして世界に日本の文化をもっと知ってもらい、昔と同じ過ちをくり返さないように対策を練りつつ、まわりの国と堂々と対等にわたりあうべきだと私は思います。

私はそのような部分で、これからの日本を支えていきたいと、思います。ただ支えになるだけでなく、自分の意見を出して未来の日本を明るくしたいです。



当時の庶民の生活を体験中



当時の自転車を体験中



待ちを待ったお昼ご飯!



江戸からの歴史を持つ旧安田庭園にて

中等部2学年だより

English Summer Camp

長い夏休みも終わり、8月27日(月)から29日(水)の3日間、私たちは東海大学婦恋高原研修センターに行き、English Summer Campを行いました。

この3日間は涼しい環境であるばかりか、日本離れ(?)した環境の下、生徒諸君はアメリカ人大学生たちと寝食を共にして、英語と格闘していました。

全力で楽しむ

黒木 花菜

2年A組 港区立芝浦小学校出身

このキャンプを振り返ってみると、私は耳が英語に慣れたように感じます。アメリカ人大学生の方と3日間も一緒にいたので、キャンプ前と比べて、英語で何と言っているか、理解できるようになった気がします。ひとつの単語だけでも聞き取ったり、状況を読んだり、ジェスチャーを理解することで、意思疎通ができました。

アメリカ人大学生の方は一日中テンションが高かったです。だから、私たちがすごく話やすかったです。騒ぐとき思いっきり騒ぐのと、冷めた目で見ているのでは、感情豊かで行動的な方が断然カッコいいと思います。特に、ダンスパーティーのときは、私のズボンが汗で濡れるほど騒ぎました。

楽しむときは自分から——その通りだと思いました。自分も楽しんで、周囲と一緒に楽しむことが一番気持ちよくなることだと思いました。また、このような機会を設けてもらえたら、このキャンプのことを思い出して、思う存分楽しみたいと思います。

終わりよければすべてよし

秋田 康大

2年B組 北区立荒川小学校出身

最初、イングリッシュ・サマー・キャンプは、あまり楽しいものではないと思っていました。しかし参加してみると、とても楽しいものであるとわかりました。3日間英語漬けというなかで、初日はあまりうまく会話ができなかったけれど、2日目、3日目と経過するうちに、自分からアメリカ人大学生に話しかけられるようになっていきました。「1分スピーチ」をしたり、「ドラマ」をつくったりするのでとても楽しかったです。

僕が一番楽しいと思ったのはキャンプ・スキットです。それは自分たちでセリフを作って演じるアクティビティーです。僕のグループは「ドラえもん」をやりました。セリフを考えるのはとても大変でした。最初から作り上げるので、何をしたいのかまったくわかりませんでした。アメリカ人大学生に説明するのがとても難しかったです。でも、そのなかにも楽しさもありました。

キャンプでは、他にもいろいろな経験をすることができました。振り返ってみると、すべてが楽しかったです。機会があれば、もう一度ぜひ行ってみたいです。



アメリカ人大学生の指導を受けて



屋外で授業



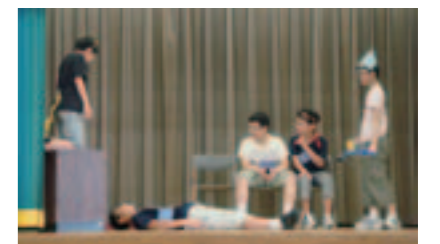
いただきますー



マッシュマロを温めて



手を挙げる



熱演中?

中等部3学年だより

中等部3年生は部活動を引退して、「高校の部活動」に参加している生徒もいます。参加して感じたこと、思ったことを書いてもらいました。初めての経験を通して、皆大きく成長したことでしょう。また、中等部最後の夏休みを振り返って「夏休みの思い出」も書いてもらいました。

引退試合

阿部 甲洋

3年A組 横浜市立上寺尾小学校出身

8月18～20日の3日間、引退試合がありました。「最後の試合だから勝もできずに終わりがたくない」と強く思っていました。しかし、心に余裕がなくなると体が固まってしまう。焦っていいことなんかありません。練習でやってきたことを信じて、落ち着いて試合のコールがかかるのを待っていました。残念ながら結果は喜べるものではありませんでした。

負けてしまった後は、応援に徹しました。しかし相手は強くて勝てませんでした。夏が終わった、そう感じました。終わってみて感じたことは、自分に自信を持つことが大切ということです。練習をしっかりすることはもちろんのことですが、十分な練習を終えた後、自信をしっかり持ちプレッシャーに打ち勝てるかどうか、それがスポーツの世界では重要だと感じました。

理科授業に参加して

平賀 絹子

3年A組 草加市立瀬崎小学校出身

私は8月6～9日まで理科の体験授業で東海大学湘南キャンパスに行ってきました。いろいろな付属校の生徒が集まった授業でした。1日目はエネルギーについて学びました。太陽光・風力・熱電のそれぞれの発電について、メリット・デメリットを知ることができました。熱電発電は面白く、メリットは温度差を使って発電できること、デメリットは温度を保つためにエネルギーを使ってしまうことでした。2日目はテーマごとに分かれて体験授業でした。私が参加したのは、「電子ペーパーの表示原理」についてでした。3日目には発表会がありとても緊張しましたが、終わるとほっとして、知り合った仲間たちと記念写真を撮ったりしてとても和んだ雰囲気でした。知らなかったことをたくさん吸収することができ、そして貴重な体験になりました。

短い夏休み

鈴木 海生

3年B組 品川区立大井第一小学校出身

「え？あと夏休み3日なの？」これが夏休み終了直前の率直な感想でした。今年の夏は本当に忙しく、充実した夏休みでした。毎日ほとんど部活でした。中等部のソフトテニス部の活動引退後、高校生と一緒にソフトテニス部の活動をやることになったのです。

毎朝7時前に家を出て、電車で埼玉まで向かいます。そして、練習を終えて夕方5時ごろ埼玉の駅に向かい、家に帰るとい生活が続きました。

練習は、中等部とは全く違うレベルで、体力的にも精神的にもつらかったです。でも、そんな時に助けてくれたのが、友人と先輩方と先生でした。つらい時、時に厳しく、時に優しく指導してくださいました。その支えがなかったら、私は途中で投げ出していたかもしれません。本当に感謝しています。

花火に誓う

辻 亜彩美

3年B組 新宿区立西新宿小学校出身

私の夏休みの思い出は、中学最後の吹奏楽コンクールに向けて頑張った「部活動」です。夏休みに入ってから休みはなく、つらいことがたくさんあり、何度も逃げたくなりました。そんなつらく苦しい日々はあっという間にすぎ、気が付けばコンクール当日になっていました。当日の朝や、移動中のバスの中では、それほど緊張せずにリラックスできました。

そしていよいよ本番の時が来ました。失敗してしまったところもありましたが、それなりに納得できる演奏が出来ました。しかし結果は悔いの残るものになってしまいました。

帰りのバスで、どこからかまるで落ち込んでいる私たちのことを慰めてくれるかのように咲ききれいな花火が見え、私はその花火に、引退するまで精いっぱい頑張っていくことを誓いました。

高校1学年だより

読書の秋～感想文特集～ 辻原 登 最新刊「父、断章」

東海大学文学部 文芸創作学科教授

章を断ち、義を取った辻原氏の「謝罪」と「恩返し」

一年四組二十五番 海老優之介(東海大学付属高輪台高等学校中等部出身)

「父、断章」は、辻原登氏の作品の中では、いちばん最近に出版されたものである。しかし奇異なことに、この作品が書かれたのは二〇〇一年。十一年前。辻原氏が五十六のときだ。詩の作品をよく読んでいる私は、この作品がすぐに氏の中では「古い」作品だと分かった。「家族写真」もそうだが、なぜ十一年も経ってからこの作品が刊行されたのであろうか？

この作品は辻原氏の父親である村上六三を主人公に据え、六三が「謝る」「敗される」「怒る」姿を描いている。「章を断ち、義を取る」という言葉がある。この作品の場合、この「章」は六三本来の姿、「義」は辻原氏が他の小説で捏造した六三の姿。「言いつけきであるか。まさに「父、断章」である。辻原氏は自身の作品の中で、父親をスタスタに切り刻み、欠点だらけの人物に置き換えて登場させているのだ。それも一度だけでなく、何度も別の形で、それに対する謝罪に近い形で、この作品が書き綴られている。

辻原氏は作品の中で、人を、少なくとも父親を矮小化しながら書いていくとある。今までならばともかく、この作品は謝罪の念が込められているのだから、あたかも偉大な人間のように描かれている。逆に、この作品に登場する辻原氏が矮小化されている。例えば前者は、教え子たちに自分の過ちを土下座すること、教え子を感じさせたり、欺され、金を盗まれたのにもかかわらず訴えなかったり。後者は、弟に何度も頬をつねられたり、食欲で夕夕をこねたりしている。まるで、「こうしなくては気が済まない」というような「感情」が見受けられた(それに対して反感の念を抱いているワケではない)。

そういえば、私は偶然であるが、辻原氏に氏の「義」について指摘したことがある。「この小説のこの人、その小説のその人、あの小説のその人は同じですよ」と。そしてそれが「義」であった。何も知らぬ私は「毎回のよこのキャラクターが登場しますが、何か理由があるのでしょうか」と問うと、氏は「確かに醜くて機転の利くいやらしい男ですが、どこか愛らしいですよね」と答えた。辻原氏は父親を愛していた。しかし氏は父親を矮小化して小説を書き上げた。小説家というのは、愛しているモノでさえもスタスタに切り刻み、矮小化し、書き上げ、生き続けねばならないのか、と今になって心に響いた。どこか哀しくさえも思う。「父親には息子殺す権利がある」と辻原氏は考えていたが、むしろ辻原氏の行いは「息子が父親を殺している」と見受けられる。あるいは、それに対して謝罪しているのかも知れない。そしてこの「父、断章」を書いた後も、氏は義を描いている。反省の情が見受けられない、ならば何のためにこれを書いたのだろうか。そもそも、これを読みだしたキッカケの「父、断章」は、辻原氏の言葉だ。

「父、断章」を読んでみてください。あれに書いてあることは、ほぼ事実です。「父、断章」を読んでみてください。あれに書いてあることは、ほぼ事実です。「父、断章」を読んでみてください。あれに書いてあることは、ほぼ事実です。

「父、断章」を読んでみてください。あれに書いてあることは、ほぼ事実です。「父、断章」を読んでみてください。あれに書いてあることは、ほぼ事実です。「父、断章」を読んでみてください。あれに書いてあることは、ほぼ事実です。

「父、断章」を読んでみてください。あれに書いてあることは、ほぼ事実です。「父、断章」を読んでみてください。あれに書いてあることは、ほぼ事実です。「父、断章」を読んでみてください。あれに書いてあることは、ほぼ事実です。

父、談笑——父親になつてから思いつく

一年一組学級担任 野口大輔(国語科)

私の父は、上州は富岡市の生まれである。高崎工業高校時代はスリングの選手で、今も腕力では父に敵わない。いや、「腕力でも」が正しい。私は父に何回勝てるものがない。「男二女を大学に通わせ」私など大学院にまで進学してしまった、セネコンを定年退職した今も、大人になった子どもたちのために金銭面の援助を惜しまない。私が五年前にマイホームを購入したときも、頭金の一部を工面してくれた。しかもさりげなく、決して、恩着せがましくなく。

父はとにかく「せつかち」であった。仕事のときも接待ゴルフのときも、やたら早く家を出た。家族旅行では往路のうちから帰りの時間を心配していた。不思議なもので、あんなに嫌だった父の性質が、齢を重ねるにつれて自分にも感染してくる。信写が赤に変わったり、電車がちよつと遅れたりするだけでイライラしている自分に気付いたとき、父の姿を思い重なる。

昨年の夏、父の還暦祝いに新浦安のホテルで食事会を開いた。「開いた」というのが主催したかのように聞こえるが、実際に手配したのは母と妹たちである。こういうとき、男は気が利かない。私は三人とも娘で良かったなあ……と安堵してから、ふと自分に男の子がいらないことを淋しくも思った。父にとつての自分に相当する男性が、私にはない。

父は一滴も酒が飲めない。そんなところも長男にしっかりと受け継がれている。よくある「父と息子が杯を酌み交わす」感覚はよく分からないうが、アルコールなどなくとも気持ちを通じることが出来る。それだけ、疑いようのない事実だ。



辻原 登「父、断章」(2012年6月30日:新潮社) 表題作の初出は「群像」2001年7月号

高校2学年だより

それぞれの感動を胸に… 研修旅行②

6月21日から26日まで、研修旅行に行ってきました。6コースとも無事に終わることができ、生徒たちはたくさんの思い出ができたことと思います。今月は残り3コースの感想を紹介します。

■オーストラリアホームステイコース

6組 黒澤 暁慈
横浜市立六角橋中学校出身

私は今回の研修旅行、オーストラリアホームステイコースを通じて多くの人と出会い、いろいろなことを体験し、さまざまなことを学びました。中でも、研修旅行3日目から2泊3日で行われたホームステイはとても印象に残っています。

ホームステイの初日、私と学年委員長の伊藤君のペアは、ステイ先のお母さんと対面すると、すぐにフットボールの試合を観戦しに行くと言われ、そのまま車で試合会場に向かいました。会場につくと、何が食べたいかと聞かれたので、ホットドックをいただくことにしました。食べながらの観戦はともご機嫌でした。試合の残り時間が1時間ほどになった時、ステイ先のお父さんと長男も合流しました。スタンドはかなりの興奮状態でした。その輪の中で一緒に応援しながら感じたのは、あちらの方は勝負事になると気持ちの高まりを素直に表現することでした。ホームステイ2日目は動物園に連れて行ってもらう、オーストラリアに生息するカンガルーやコアラなどの動物を見ることができました。私のステイ先の家族はみんな、休日は完全に仕事を離れ、リラックスして過ごしていました。このようなゆとりのある生活スタイルは、日本の家庭でも大切にしなければいけないことだと思いました。

ステイ先の家族や現地の方々とのコミュニケーションを通して、自分には積極性が足りないと感じました。オーストラリアで学んだことを踏まえて、何事にも積極的に取り組み、今後の高校生活を充実させていこうと思いました。



■ハワイ研修コース

7組 大谷 優斗
森村学園中等部出身

研修旅行は高校生になって初めての宿泊行事だったので、ワクワクした気持ちのままハワイに着きました。初日の夕食後、アリゾナ記念館についての話がありました。先生方は、私たちに「アリゾナ記念館では絶対に笑うな」と言われました。その時はそこまでする必要はあるのか疑問でした。

翌日、朝早くからアリゾナ記念館に行きました。記念館の入り口のゲートを通り抜ける前までは特に何も感じませんでしたが、通り抜けた直後に現地の人々の視線が一斉に向けられたような気がしました。記念館にある展示物を見たり、海に沈んでしまった戦艦の真上に行ったりして、先生方の言葉を初めて理解しました。この場所では、戦争から何十年経っても、日本人に対して心から友好的であるとはいえないのです。

戦争の遺した爪痕はとても深く、とても消えるものではないと感じました。逆に、広島と長崎はどうなのでしょう。この旅行を通じて、私は複雑な、けれども非常に有意義な気持ちを持つことができました。



■沖縄コース

9組 橋本 幸亮
千代田区立麹町中学校出身

「はいきーい」、沖縄で「こんにちは」という意味のこの言葉を東京に帰ってきた今でもたまに使っています。研修旅行初日の天候は最悪。雨があまりにも激しすぎて制服がずぶぬれになったことを思い出します。ところで、私が沖縄で最も印象に残っていることは2つあります。1つ目は平和講話です。沖縄戦争を実際に体験した方から、その当時の沖縄の状況や戦争に対する想いをうかがいました。そのお話は、私の予想以上に恐ろしく、想像するだけで目をふせなくなるようなものでした。しかし、戦争を知らない世代が人口の多くを占める今、私たちのような若い世代が戦争の恐ろしさを知り、そして後世に伝えていくことが必要だと平和学習を通して深く感じました。

さて、沖縄といえばやはり海！2つ目はマリンスポーツ体験です。みんな日焼けをして体が真っ赤になるほどはしゃぎ、精いっぱい楽しみました。とくにスキューバダイビングは初めての体験だったので、海の中の光景を今でも鮮明に覚えています。1日ですが、仲間たち

と最高の思い出を作ることができました。帰りのバスの中で、バスガイドさんに「簡単に来られた研修旅行でしたか?」と聞かれ、ハッとしました。両親や先生方、この研修旅行に関わってくださったたくさんの方々のお陰で楽しい旅行ができたということを忘れず、思い出と感謝を胸に、残された高校生活を過ごしていきたいと思います。



高校3学年だより

特別奨励内定者特集

「特別奨励で内定をもらう秘訣はなんだろう?」

その疑問に答えるべく、今年度の該当者の皆さんにアンケートを実施して、学習に対する取り組みと工夫を教えてくださいました。この結果の中から日頃の勉強のヒントをたくさん見つけてください。

(回答者数は56人。下記の単位のない数字は人数を表しています)

Q1.得意科目を1つだけ挙げると何ですか?

1位 数学(20) 2位 地歴公民(12) 3位 英語(8)

Q2.不得意科目を1つだけ挙げると何ですか?

1位 数学(14) 2位 英語(12) 3位 国語(11)

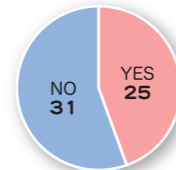
Q3.自由な時間は、どのように過ごしていますか?

読書・睡眠・映画鑑賞・スポーツ・テレビを見る・ギターを弾く・運動・ラジオを聞く・友達と遊ぶ・インターネット・家族と過ごす・音楽鑑賞・写真を撮りに行く・家でゆっくり・犬の散歩・ショッピング・小説を書く・ゲーム

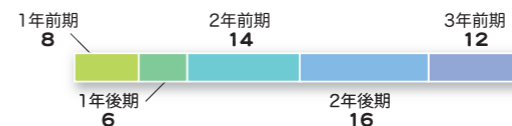
Q4.将来、就きたい職業は決まっていますか?

Yesの回答のなかから:

教員・臨床工学技士・海洋生物学者・宇宙工学関係・医師・パイロット・看護師・映画監督・ラジオのパーソナリティー・デザイナー・鉄道関連・水族館の飼育係・小説家・建築士・スポーツ関係・研究職・声優



Q5.第1志望は、いつ頃に決めましたか?



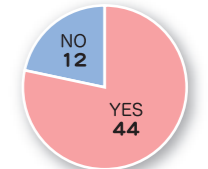
Q6.何を励みに勉強していますか?

将来のため・良い点を取りたいというモチベーション・夢の実現・自分のため・一番近い時期にある楽しいこと・サッカー・両親の笑顔のため・勉強後の楽しいこと・テスト後の自由時間・楽しいと思いつく・知識が増えていく実感・お菓子を食べる・特別奨励になること・小説を書くこと・テストの結果・希望学科への内定・親の寛大な心・大学生活・魚への情熱

Q7.部活動に入っていますか?

Yesの回答で:

運動部(31) 文化部(13)



Q8.部活動と学習の両立で工夫していることは何ですか?

授業についていく・だらだら勉強しない・学習はどんな場所でもできる・どちらも一生懸命取り組む・通学時間も利用する・部活動は頑張る・学習はきちんとノートをとる・やる時はやる・やらないときはやらない・学校でできることは学校でやる・早寝早起き・割り切って勉強する・頭の切り替え・短期集中で勉強する・計画的に過ごす・部活動と勉強のメリハリをつける・とにかく気合・時間を有効活用する・先生に聞く・息抜きのタイミング・授業中に全部理解するようにする・妥協しない

Q9.定期試験の何週間前に勉強を始めますか?



Q10.後輩へのアドバイスを何でも

将来の夢を自分の力で見つけてください。気合で頑張ってください。部活動も勉強も全力で。授業内容を理解できるように。最後まであきらめず。楽しもう。当たり前のことを当たり前にすることが大事です。勉強と遊びのスイッチをきちんと切り替えよう。勉強をするときは声を出して読むとよい。なんでも楽しむことが大事。集中して授業を受けましょう。3年の基礎学は頑張ってください。授業で基本を覚えればテスト前が楽です。両立はやれば必ずできるので頑張ってください。日頃から勉強はしておいた方がいい。受験をしないで大学へ行けるけれど、自分のためにもしっかり勉強して努力することを怠らないでください。授業は寝ないように。やるべきことはきちんとやろう。英語だけは自発的に勉強すべき。ただやるのではなく考えてやる。効率よく勉強しよう。努力すれば必ず夢に近づけます。無理矢理勉強しても身につかないので、日頃からリラックスして勉強するとよい。基礎学は重要です。授業をきちんと聞くだけでも成績は良くなるものです。時間をかけることより集中して勉強することが大事

SSH活動報告

8月8・9日、全国のSSH指定校が参加した「平成24年度生徒研究発表会」がありました。本校から3年SSHクラスの瀬戸君がポスター発表をしました。

8月21日からの5日間、2年SSHクラスと普通クラスの希望者の生徒が「課題実験夏期集中授業」の活動を行いました。今年度も都立科学技術高等学校の生徒と一緒に参加しました。物理・化学・生物・数学・環境・工業の各コースに分かれ、前半の3日間は東海大学湘南校舎(数学は代々木校舎)で、大学の先生の指導のもと、高度な実習・実験を行いました。後半2日間は、実験してきたことをまとめ、発表会を行いました。難しい内容ながら、高校ではできない実験・実習に、生徒たちは積極的に取り組んでいました。

全国での発表会

瀬戸 龍太郎

3年10組 新宿区立落合中学校出身

私は「タイリクバラタナゴのオスの行動実験」を行い、8月にポスターで発表しました。タイリクバラタナゴという魚のオスがどんな特徴を持つメスに強く反応するかを研究しました。しかし、実験回数が不十分で計測方法も曖昧だったので信憑性のあるデータが取れませんでした。また、そのデータを表にすることも苦勞しました。自分の力だけでは表やポスターが上手く作れず、先生に何度も迷惑をかけました。発表直前まで夜遅くまで学校に残って実験とポスター作りをしていました。そして発表当日までにはどうにか完成しました。

会場には、全国各地の高校が集まっています、あまりの人の多さかなり緊張しました。発表して言葉が詰まったり全身が固まってしまった場面もありました。私の研究テーマが、地味であり人の目も引くものではありませんでしたが、発表を聞いてくれた人からは実験方法、結果のまとめ方について良いアドバイスをいただきました。周りの発表なども聞いてみて、自分の実験はまだまだ方法も内容も再考する必要があることがわかりました。部活動も終わり、時間ができたのでさらにタイリクバラタナゴについて研究していきたいと思えます。



堂々と発表できました

夏期集中(工学コース)に参加して

山本 隼人

2年9組 川崎市立平間中学校出身

僕は初め、大学生と一緒に実験をすると聞いて、大学生のTAの方と上手くコミュニケーションを取れるか心配でした。しかし、実際に研究室に行くとそのような心配はなくなりました。なぜなら、TAの方が僕らにフレンドリーに接してくれたからです。1日目の昼食の時間はTAの方と一緒に食べることになり、その時にたくさん会話をしました。そこでは自己紹介や、学校の話、しまいには僕たちの名前を大学生が当てるというおかしなクイズに発展しましたが、とても楽しかったです。昼食後の実験では、その会話が合ったからなのか気軽に質問ができるほど馴染むことができました。実験は、ドライアイスを使った実験、合金を作る実験をし、今まで経験したことがなかったので、とても楽しかったです。そして最終日の3日目は、僕たちが本校で発表するということもあり、1人ひとりのTAの方がついてくれました。とても丁寧に教えてくれて、わかりやすく、こんな大学生になりたいと思うほどでした。その後の、3日間のことを発表する全体発表では、緊張を忘れてしまっただけでわかりやすく教えることができたかわからなかったです。しかし、この経験は、僕にとってとてもいい経験になりました。



3000℃の熱で合金を作ります

環境コースで学んだこと

堤 洗貴

2年9組 川口市立幸並中学校出身

東海大学湘南校舎の近くの流れている金目川に行き、水生生物の捕獲に行きました。最初に上流域に行きました。そこではカゲロウなどの水生昆虫を捕まえました。次に中流域に行き、ボウズハゼなどの魚を多く捕まえました。他にも上流と中流域それぞれに植生している植物の説明を受けました。

その後、大学に戻り水質調査を行いました。最初に今回金目川で捕まえた生き物を使った生物学的水質判定法を実施しました。また薬品を用いた理化学的水質判定法もやりました。結果は、上流はキレイでしたが人が多く住んでいる中流域は汚れていました。そして、次に電子顕微鏡を使いました。捕まえた水生昆虫を電子顕微鏡を用いてマイクロレベルで観察をしました。この顕微鏡は高校ではなかなか使うことができないものなので、貴重な体験をしました。

今回の体験をして感じたことは、もっと自然を大切にしたいということです。なぜなら、金目川の調査の時、人が多く住む中流域にはゴミがたくさん浮かんでいたからです。また、水質判定の結果でも上流に比べ、汚れているという判定が出たからです。普段の生活で川を多く利用しているのに、その川を汚してしまっているのはおかしいと感じました。僕は、ゴミ拾いなどの自然保護活動に、積極的に参加していきたいと感じました。また、東海大学教養学部の方々の協力のおかげで普段できない体験ができました。この経験をこれからの学業に生かしていきたいです。



金目川上流での水生生物の捕獲

東海カルチャーセミナー

第7回「東海カルチャーセミナー」第1部では、昨年「全日本吹奏楽コンクール」全国大会で銀賞に輝いた本校吹奏楽部が、マーチ「アルセナール」をはじめ「フェスティバル・ヴァリエーション」から「ジャパニーズ・グラフィティ」まで、バラエティーに富んだ曲目で聴衆を魅了しました。第2部は東海大学工学部電気電子工学科教授で東海大学チャレンジセンター次長の木村英樹先生に「太陽光発電と世界最速ソーラーカーの実力」というタイトルでご講演いただきました。ソーラーカーレースの舞台裏から身近な太陽光発電の話題まで興味深いお話しに、講演後に会場から質問が相次ぎました。

東海カルチャーセミナーに参加して

後援会学年部部長 矢島 直美

8月25日(土)の東海カルチャーセミナーに参加させていただきました。第1部は、本校吹奏楽部の演奏でした。日々練習を重ねている吹奏楽部の皆さんの演奏はとても素晴らしいものでした。第2部は東海大学工学部電気電子工学科教授、東海大学チャレンジセンター次長の木村英樹先生より「太陽光発電と世界最速ソーラーカーの実力」というテーマのお話をうかがいました。前半はエネルギー事情の最前線について、発電は方法により各々に良い点、悪い点があることを教えていただきました。震災後電力不足のため、節電が行われているなか、皆が省エネルギーについて関心を持つことは重要だと感じました。

後半は東海大学が企業、学生とともに取り組んだソーラーカーの開発についてでした。オーストラリア大陸を縦断する「東海チャレンジャー号」の走る姿、2連覇を達成した時のチームの喜びの様子を映像でご紹介いただき、目標に向かってチームで一丸となる魅力が伝わってまいりました。質疑応答では、技術的な内容から小さいお子さんの質問まで丁寧に答えていただきました。とても興味深い講演をありがとうございました。



木村先生の講演



会場からの質問

TOKAI キャンパスメッセージ

機械工学科と高輪台生

工学部機械工学科教授 岩森 暁

皆さん、はじめまして。機械工学科における高輪台高校出身学生の近況報告をさせていただきます。機械工学科は「技術立国日本を背負って立つ、創造力・応用力に富んだ機械エンジニアを育成する」ことを目標にさまざまな教育上の取り組みを行っております。現在、機械工学科には高輪台高校出身の学生は14名(内訳は1年生2名、2年生4名、3年生2名、4年生6名)在籍しています。機械工学科では、新入生は入学するとすぐに新入生研修会を1泊2日で実施しています(写真1)。新入生研修会では例年、PBL(プロジェクト・ベース・ラーニングの略)の宿舎も兼ねて実施しています。PBLは1チーム4~5名の学生で構成され、チームで一つの『宅配ロボット』を材料の入手から設計・加工・組み立てまで行います。写真2は今年の作品の一例で、授業の最終日には「走行会」を行い、優れた作品に対して表彰しています。今

年入学した高輪台生2名(I君とH君)もそれぞれのチームで中心的な役割を果たしていました。2年生になると専門科目が増えてきますが、部活動やサークル活動などでも中心的な役割を担うようになってきます。一昨年入学した高輪台生のS君も、本学チャレンジセンタープロジェクトのTokai Formula Clubにおいて、フォーミュラカーを製作するプロジェクトに参加し、勉学と本プロジェクトの両方でバランスをとりながら活躍しています。3年生になると機械工学科では2つのコースに分かれます。機械応用コースは好きな分野の科目を自由に履修して卒業したいという学生向けのコースであり、機械デザインコースは、世界標準レベル以上の幅広い専門知識と能力を身につけるためのコースです。3、4年生の高輪台生は、機械デザインコースに3名、機械応用コースに5名在籍しています。また、3年生の秋学期ごろから卒業後の進路



(写真1)



(写真2)

についても考え始め、機械工学科では就職ガイダンスや先輩による就職体験談などの就職支援活動も積極的に行っています。ぜひ一度、湘南キャンパスの機械工学科を訪ねてください。

お知らせ

後援会『けやき屋食堂・バザー』

ご来場をお待ちしております!!

後援会会長 大谷 謙太 学年部部长 矢島 直美

10月6日(土)、7日(日)両日に開催されます第48回建学祭において、本年も後援会として、けやき屋食堂とバザーの参加を予定しております。

- 場所 ●けやき屋食堂 / B2F 食堂 10:00~
●バザー / B2F 物理実験室 10:00~(両日とも)

行事予定

October 10 月

November 11 月

- 1日(月) 後期始業式[正制服着用] 45分短縮授業
- 2日(火) **振替休日(高2、9/30分)**
- 3日(水) 建学祭開祭式(7時限)
- 4日(木) 建学祭準備日(～5日)
- 6日(土) **第48回 建学祭(～7日)**
- 8日(月) **体育の日**
- 9日(火) 建学祭閉祭式 45分短縮授業
- 10日(水) 第11回中等部・高校合同体育祭予備日
- 11日(木) **振替休日(10/7分)**
- 12日(金) 高校2年保護者面談開始(～11/16)
- 13日(土) 英語検定(中2・中3、高校希望者)
中等部受験生・保護者学校見学説明会(2回目)
- 17日(水) 金曜日の授業
- 18日(木) 学年集会(中1) 東海大学進学説明会(高1)
- 19日(金) 教育実習(～11/9)
- 25日(木) マナー講座(中1) 学年集会(高1)
- 27日(土) SSH成果報告会
- 28日(日) 高校受験生・保護者学校見学説明会(2回目)
- 31日(水) 木曜日の授業

- 1日(木) 東海大学建学70周年記念日 生徒自宅学習日
- 2日(金) **建学記念式典** 朝礼[正制服着用] 45分短縮授業
- 3日(土) 文化の日
- 8日(木) 学年集会(中3・高3)
- 9日(金) 後援会湘南校舎見学研修会
- 10日(土) スポーツ大会(高3:アリーナ)
- 11日(日) **中等部受験生・保護者学校見学説明会(3回目)**
- 12日(月) 木曜日の授業
- 13日(火) 14日(水) 一斉公開授業2回目
- 15日(木) 学園高大連携総合試験(高3)
基礎力判定テスト(高1・高2)1回目
外部実力試験(中等部)
- 17日(土) **高校受験生・保護者学校見学説明会(3回目)**
中等部水泳実習2回目(湘南キャンパス)
- 20日(火) 生徒会立会演説会(1時限) 木曜日の授業
- 21日(水) 専門医によるカウンセリング
- 22日(木) 生徒による授業評価アンケート(3回目)
- 23日(金) **勤労感謝の日**
- 24日(土) 後援会委員総会
- 25日(日) 高輪台創立60周年記念式典
- 29日(木) 卒業試験(高3～12/4)
後期中間試験(中等部～30日、高校～12/4)

避難訓練の様子



編集後記

福島第1原発の事故を受け、政府は2030年代に原発ゼロを目指す方針を打ち出した。しかし、これで問題がなくなるわけではない。再利用されるはずだった青森県六ヶ所村の約3,000トンの使用済み核燃料が行き場を失うことになるからだ。半減期が2万4千年もあるプルトニウムをいったいどうするのか。核廃棄物を安全に処理するために、原子力研究の重要性はさらに高まる。今後、優れた原子力技術者を育てることが、原発廃止に向けての大きな課題となる。東海大学原子力工学科をめざす生徒が出ることを期待したい。(か)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ: <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>